

他の時代についての講演も聞いてみたい。日本全国の歴史について熟知されており、話に幅があっておもしろかった。須藤さん、足利教授の講義も、福原京について具体的でわかりやすかった。発掘現場に見学に行きたい気持ちになった。最後のパネルディスカッションは、司会の方がいちばん多く話をされていたが、講演者や報告者の方の話をもっと聞きたかった。ところで、パネルディスカッションでは聴衆が半分に減ってビックリしてしまった。4時間は長すぎるのでしょうか…？でも、全体として楽しめました。神戸市のみならず、兵庫県全体の歴史に関する講座も開いてほしい。

森山律子さん：暑さの中での講座はとても価値がありました。港（船舶）で開かれて来た日本の経済は、これから一体どうなるのだろうかと思います。震災後の発展も含めて、やはり神戸は海を基本に考えて発展してほしい。進歩を急ぎ過ぎると歴史がつぶれてしまいます。人間の歩んで来た歴史を勉強する事が肝要です。昔を調べることは人や土地を大切にすることにつながると実感しました。「未来はいまと続き現れる」

保田ひでさん：ぜひ出席したくて、他の予定をキャンセルして参加致しました。神大文学部講座で奥村先生のお話を聞き（H7/秋）、また私がお世話している神大公開講座同窓会（KKD）で、先日も神大先生のご案内で「兵庫津の道」を歩いて来たばかりです。震災後、さま変わりした兵庫のまちに歴史の今昔を今更感じたことでした。今日また多くの先生方のボランティアによって、このようなよい会を開いてくださりありがとうございます。永井先生のお話、学者とはちがった、女性らしい感情と、小説家としてのイメージーションゆたかな楽しいお話でした。諸先生方のお話、いずれも充実してよかったです。スライドも大変よくわかりました。神戸は古代からの重要な歴史に関わった地であることを、市民（特に若い人たち）にぜひ知ってほしい。語りついでゆく必要があると思います。

柳生武彦さん：合併問題にまつわる歴史イメージの扱われ方を考えた時、この様な市民レベルの「歴史と文化」を知るイベントの重要性がよくわかりました。震災直後に歴史保全に尽力された皆様に感銘しました。避難所であった御影公会堂で催されたことも、文化財を活きたまま保存するという意味でよい選択だと思います。

吉井安輝さん：大変オーソドック、アカデミックで良く考えられた構想の講座で、真面目に運営されて良かったと思いました。熱心で熱意のある姿勢を強く感じました。藤田さんの司会、大変適切だったと思います。設備のとのった交通の便のよい大学の教室を借りた方が、更に良い講座になると思いますが？

渡辺昇さん：時間が限られていることから、パネルディスカッションもテーマに即した内容に限定した方が良かったのでは？永井氏の講演を基調に進めるほうが、一般の人にはわかりやすいと思われる。地元の東灘区に気をを使うなら、近隣の平安期遺跡の調査成果を内容に盛り込めば良かったのでは。例えば住吉宮町遺跡、山陽道とそれに面した遺跡、芦屋廃寺と房王寺など。

ボランティアの市民講座参加記①

高岡恵美（神戸大学文学部2回生）

今回初めて市民講座に参加しました。念願の永井路子さんの講座を聞くことができました。妻や乳母といった女性陣にスポットをあててのお話して、清盛の時代が身近に感じられました。

“平野しかない町もあるのに、神戸は海も山もあり恵まれた土地だ”と話された方がいました。山に囲まれた京都がどうしても閉ざされた感じがするのに対し、海のある神戸はやはり開かれた都というにふさわしいと思います。今でも学校帰りには、海を眺めて立ち止まったりします。平家にこれぞという跡取りがいて、福原京が大きく育っていたら・・・とつい考えます。

史料ネットの活動については、授業の中で少しは聞いていましたが、それでもまだよく理解できていない気がします。発掘のお話にもあったように、被災地で発見された遺物や、保全した史料を何にどう活かしていくのかが、大変な作業なのだと思います。私は、研究者と市民をつなぐという視点が気に入っています。今回は時間がなかったようですが、参加者の質問や意見をとり入れる市民講座が続いていくといいと思います。

ボランティアの市民講座参加記②

北田裕行（京都大学大学院生）

今回、市民講座に初めて参加した。著名な永井路子氏の講演とあって、多くの参加者でほぼ